

自然を満喫、笑顔あふれ

初夏の伯耆路を巡る「第9回日本海未来ウォーク」(NPO法人未来、新日本海新聞社など主催)が6日、2日間の日程で開幕した。青空と深まる新緑、さわやかな風に後押しされ、全国各地から集った約1400人のウォーカーは軽快に歩を進めた。大勢のボランティアも大会運営を支え、ウォーカーに元気を送った。



最長40キロコースの出發式では、大会長の山田修平鳥取短期大学長が「自然の恵み、まちの鼓動、人の優しきを感じながら、歩くことを精いっぱい楽しみましよう」とあいさつ。96人が2つの山越えがある健康コースに挑んだ。新緑の大平山を抜けて東郷池沿いを歩く24キロコースには初日最多の473人が参加。木



さわやかな風が吹き抜ける東郷池沿いを歩くウォーカー＝6日、湯梨浜町長和田

全国から1400人 軽快に歩きを楽しむ

つばいで風もさわやか。ボランティアも輝いている」と笑顔。松江市の野津喜久雄さん(62)も「全国から参加した人たちと話をしながら歩くのはとても楽しい」と大会を満喫していた。

白壁土蔵群など市街地を歩くと、10キロコースには親子連れらが多数参加し、古い町並みの散策を楽しんだ。

同コースに参加した大阪府豊中市の仲井かつえさん(66)は「緑は、土蔵群近くの高田

は、東郷池特産のヤマトシジミがたっぷり入ったシジミ汁が約550人分振る舞われ、ウォーカーの疲れた体を癒やした。

燕趙園前は、40キロコースのゴールが、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心で開かれた。参加者は、歩く喜ぶエックポイントにちや楽しさを子どもたちに教える歩育への理解を深めた。

また、片倉道夫大阪府ウォーキング協会長の司会で、畑中一同副会長、山羽氏、村山友宏日本ウォーキング協会会長、NPO法人未来副理事長の松田隆同医師会副会長がパネルディスカッション。

「小学校で毎朝10分間家庭をウォーキングすると集中力が高まるなどの効果がある」と歩育の重要性をアピールしていた。



シジミ汁を味わい、笑顔のウォーカー＝6日、湯梨浜町引地の燕趙園前

**ボランティア
手際よく活躍**

○大会を支える大きな力でもあるボランティアたち。初日は約200人が少し緊張し、役割を担った。初めてのボランティア参加だが、やって来るウォーカーを迎え、発着地点となる倉吉パークスクエアです。「お疲れさまでふれあい広場や各コース上で、手際よく動き掛けた。



白壁土蔵群にあるチェックポイントでは、由美子さん、本荘亜利沙さん、石井由香さん3人がスタンプを押す役を担った。初めてのボランティア参加だが、やって来るウォーカーを迎え、発着地点となる倉吉パークスクエアです。「お疲れさまでふれあい広場や各コース上で、手際よく動き掛けた。



「歩育」に理解 ウォーキング実践セミナー「歩育のすすめ」(NPO法人未来、県中部医師会主催)